

第四十四回帝國議會
衆議院

國有財産法案委員會會議錄(速記)第七回

會議

大正十年二月十二日午前十時五十五分開議

出席委員左ノ如シ

清水市太郎君 澤 來太郎君 宮古啓三郎君
清 峯太郎君 日野 辰次君 竹上藤次郎君
長谷場 敦君 深見寅之助君 野口忠太郎君
伊藤 廣幾君 高木 正年君 野田文一郎君
金澤安之助君 森山儀文治君 中川幸太郎君
出席政府委員左ノ如シ

内務省參事官 山田準次郎君
大藏省主計局長 西 野 元君
大藏書記官 河 田 烈君
主計局書記官 河本 文一君
陸軍主計總監 田中 政明君
文部省宗教局長 柴田駒三郎君
農商務省山林局長 中井 勵作君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

國有財産法案

○委員長(清水市太郎君) ソレデハ開會致シマス、

高木正年君

○高木正年君 極メテ簡單デスガ、寺院ノ大體ニ關シテノ監督ノ方法ハ、宗教法ナドハ今日出來テ居リマセスガ、若シ此國有財産ノ上ニ對スル寺院ノ假ニ財團ガアリトスレバ、ドウ云フ御扱ニナルノデスカ、一般ノ上ノ寺院ノ財團ノ監督ト、若シ境内ナドガ寺院ニ還付ヲ受ケル場合ニ於キマシテ、宗教局トシテハドウ云フ監督ヲスルノデアリマスカ

○委員長(清水市太郎君) 宗教局長ガ見エマセスカ
○高木正年君 内務省ノ御考ヲ承ツテ置キタイ、此二十四條ニ依リマシテ「寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル」ト云フコトニナツテ居リマスガ、元來寺社ハ全ク國有財産ト別ナモノニナツテ居リマスケレドモ、私共ハソレ等社寺ノ境内若クハ社寺ノ用ニ供シタモノハ、元々

國ノモノデナク、社寺其モノ、多クハ密附行爲デ成ッタモノカラ、今日其儘神社若クハ寺院ガ使用シテ居ルモノト思フノデアリマス、是等ノ根本主義ハ縣府應ニ於テ極メテ面倒ナ手數ヲ要シハシナイカト思フ、之ヲ貸付スル時分ニハ、矢張相當ノ手續ヲ以テ其貸付ヲ受ケルアルノデアリマスガ、畢竟スルニ二十四條ノ法文ニ依ッテ行政廳ハ元來寺院ノモノデアリ、堂宇ノモノデアアルモノニ對シテ、殊ニ行政上ノ手數ヲ掛ケル煩ヲ餘計殘シハシナイカ、是等ハ極メテ簡單ナ手續デ貸付ノ手續ガ出來ルモノト御考ニナツテ居リマスガ、内務省ガ縣廳ニ御命ジニナツテ、此事ヲ取扱ハシムル上ニ於テ、ドウ云フ規程ヲ御置キニナルノデアリマスガ、何カ之ニ就テ命令等ノ如キヲ御發シニナルノデスカ、ドウ云フコトニナリマスカルノデアリマスガ……

○高木正年君 此間宗教局ノ事ダケノコトヲ伺フコトニナツテ居リマスカラ……

○山田政府委員 當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做スト云フコトニナツテ居リマスカラ、此條文ガ成立シマスレバ、手續ハ何ニモシナイ、法律ノ規定デ貸付シタルモノト看做スコトニナリマスカラ、手數ハ何モ掛ラヌコトニナリマス

○竹上藤次郎君 質問ハ打切りニナツテ居リマスガ、愈々今日デ寺社ノ土地ハ官有デアルト云フコトガ殆ド斷定ガ出來マス、ソレニ就テ保管林ニ就キマシテ、又少シク政府委員ノ御意見ヲ承ツテ置キタイコトガ出來テ來タノデアリマス、ソレハ國有林野法第十

七條ニ社寺ニ對シテ保管ヲ委託シタル林野ハ、元來ガ國有デアルカ、私有デアルカ分ラヌト云フ譯デアリマシタ爲メニ、明治三十八年八月ノ勅令デ保管林ノ保管期間ハ十五箇年トナツテ居リマシタ、ソレヲ大隈内閣ノ時代ニ五十箇年ヲ越ユルコトニ、一遍ニ一躍シテ五十年迄許スコトニナリマシタ、ソレカラ尙ホ第六條ニ主產物ハ二分ノ一ヲ社寺ニヤルト云フ

コトデゴザイマシタガ、ソレモ一躍シテ三分ノ二ヲヤルト云フ事ニ決定ニナツテ居リマス、所謂改正ガ出來テ、此ノ意味ハ國有デアルカ、私有デアルカ少シモ分ラナイ、模糊タル間ニ斯ウ云フ特典ヲ與ヘタノデアリマス、而シテ市町村ノ保管林ヲ市町村ニ保管ヲサセテアリマス、此國有林ハ第十八條ニ依リマシテ——國有林野法第十八條ニ依リマシテ、規則ガ出來テ居リマスガ、是ハ委託期間ハ僅ニ二箇年デアリマス、一ハ十五箇年、一方ハ五箇年ニナツテ居リマシテ殊ニ其主產物ヲ市町村ニヤリマスノハ、漸ク手入ノ爲メニ伐採スル樹木或ハ家用ノ薪炭ト云フ様ナモラナイト云フコトニナツテ居リマス、此差ガ非常ニア

ル、一方ハ五十年マデ延シ、主產物ハ三分ノ二マデヤル、寺ノ方ニハソレデケカリマシテ、市町村ノ方ニハ僅ニ五箇年シカ委託ノ期間ヲ超ユルコトガ出來ナイト云フコト、シ、又ソノ主產物ヲヤリマスハ、漸クニシテ、家用ノ薪炭ナリ或ハ手入ノタメニ伐採スル樹木位シカヤルコトハ出來ナイヤウニナツテ居ル、此法律ガ決定致シマシテ國有財産デアルト云フ事ニ、土地ガ決マリマス、是ハ殆ド平等ナル取扱ヲシナケレバナラス、何ガ爲メニ寺社ニ關スル土地ダケニ五十箇年ヲ許シ、或ハ三分ノ二ヲ許スト云フ事ニシテ、而モ私有デアッタカ國有デアッタカ、マア私有ノ方ガ近サウダト云フノデ、斯ウ云フヤウナ特典ヲ寺社ニ與ヘ、市町村ニハ五箇年シカ與ヘスト云フヤウニナツテ居ルノデアリマスガ、茲ニ本日確カニ寺社ノ土地ハ國有デアルト云フコトニ決マリマス、此市町村ノ保管ノ森林、ソレカラ寺社ニ保管サレテ居リマス保管林ト云フモノハ、殆ド同ジ待遇ヲ與ヘナケレバナラスモノデアルト私ハ思フ、ソレデ政府委員ハ同ジ待遇ニスル御意思デアリマスカ否ヤヲテヨツト御尋致シマス
○中井政府委員 御答致シマスガ、社寺ノ保管林ニ就キマシテノ土地上地ノ森林ト云フモノニ就テハ、

大正十年二月十二日

從來ト雖モ矢張り國有ノ土地デアルト云フ前提ノ下ニ取扱ッテ居ルノデアリマス、只今ノ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ委託シマシタモノトノ間ニ、同ジク國有ノ森林ヲ委託スルニ就テ——差ガアル、何故デアカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ當初明治三十二年ニ國有林野法ノ設ケラレマシタ時ヨリ此兩者ノ間ニ區別ヲ設ケテアルノデアリマシテ、國有林野法ニモ第十七條ニ「社寺土地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムルコトヲ得トナッテ居リマス、ソレカラ委託林ノ方ハ「國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得」ト云フヤウニ條文ノ文字ノ上ニモ之ヲ設ケテアルノデアリマスガ、ソレハ執レモ國有林野ヲ社寺又ハ市町村ニ委託ヲ致シマシテ、其保護其他ノ管理ヲ委託シマシタ代價トシテ讓與ヲ致スノデアリマスルガ、而シテ其土地ハ何レモ純然タル國有デアリマスケレドモ、從來ノ其土地ニ對スル社寺ト市町村トノ關係等ニ於テ、差ガアルト云フヤウナコトカラ區別ヲ致シテ居ルモノデアリマスガ、ソレハ明治三十二年ノ國有林野法制定當時ヨリ區別ガアツタノデアリマス、ソレデ最モ保管林ニ就キマシテハ、前刻申シマシタ通り其後改正致シマシテ、期間モ長ク致シマスシ、又讓與ノ分量モ多クシタノデアリマスガ、而シテ委託林ノ場合ニ於キマシテハ、五箇年ト云フコトニナッテ居リマシテ、ソレハ永クスル意思アリヤ否ヤト云フ御尋デアリマスガ、是ハ五箇年トハナッテ居リマスルガ、無論委託シマスル場合ニハ從來ノ例モ左様ニナッテ居リマスガ、今後ニ於キマシテモ五箇年毎ニ更新ヲ致シマシテ、永ク續ケル積リデアリマス、ソレカラ又讓與ノ產物ニ就キマシテハ、是ハ先達テモ農商務次官ヨリ御答ヲ致シタコトモアリマスガ、大體ニ於テハ現在ノ勅令ノ通りデ、保護ノ代價トシテ讓與致シマスル分量ハ差支ナイ見込デアリマシガ、ソレカラ此點ニ就テハ調査ヲ致シテ居リマス次第デアリマス

ト云フコトデアリマスガ、是ハ餘リニ遠ザカッテ居ルノデアリマシテ、何年カ繼續スルト云フ意味ナラ、上ノ奴ヲ——保管林ノ方ノ十五箇年ヲ五十箇年ニ直シタイト云フコトハ、是モ繼續ノ意味デアリマセウガ、サウスルト委託林モ矢張り五箇年ノ奴ヲモット延バス必要ガ確ニアルト思フ、ソレカラ私ハ之ニ對シマシテ、此明治三十二年八月ノ勅令ノ第五條ニ追加ヲ致シマシテ、委託林野ニ對シ古來入會又看視ヲ爲シタル者、其他ノ緣故者ニハ左ノ林產物ヲ無償ニテ讓與スルコトヲ得、一主產物ハ其伐採量ノ三分ノ二ニ相當スル部分ニ、土地ノ資質ヲ爲サザル副產物、右ノ如クシテ明治三十八年ノ八月ノ勅令ト同ジ意味ヲ持チマシテ明治三十二年八月ノ勅令ヲ改正シテ戴キタイト思フノデアリマス、如何デアリマセウカ

○中井政府委員 尙ホ御答致シマスガ、此委託林ノ實行ニ於テハ、先達モ御答ヲ致シマシタヤウナ次第デ、從來餘リ實行シテ居ナイノデアリマスガ、今後之ヲ活用スルニ就テ、只今調査中デアアルノデアリマス、大體ニ於テハ先刻申上ゲタ通りデアリマス、尙ホ附加ヘテ申上ゲマスレバ、如何ニモ五年ト五十年ト非常ナ差ガアリマスルガ、御承知ノ通り保管林ノ場合ニハ、社寺ガ造林ヲ致シマス場合モアリマシテ、左様ナ場合ニ十五年トカ二十年ト云フコトハ、如何ニモ穩當デナイト云フヤウナコトノ關係モアリマシテ、五十年トスル必要ガアリマスガ、委託林ノ場合ニ於キマシテハ、造林等ハ總テ政府デ致スノデアリマシテ、唯タ其保護ヲ委託スルノデアリマスカラ、五年ト致シテ居リマシテ、其間ニ十分委託ノ實ヲ舉ゲマスレバ、無論原則トシテ繼續致シマスルシ、又從來多少アリマスモノモ總テ繼續致シテ居ルノデアリマスカラ、其邊ノコトニ就キマシテハ、五年トナッテ居リマシテモ、別段受託者ノ方ニ於テ懸念ハナイコトト存ジマスノデアリマス、ソレカラ此讓與ノ分量ニ就キマシテハ、御承知ノ通り國有林野法制定當時ニ於キマシテ、舊藩當時ニ於キマシテモ、社寺ハ從前ノ御林當時、地元部落受ケテ居リマシタ使用收益ノ程度等ハ、大分差モゴザイマスルシ、大體ニ於テハ無論區別ノ必要ガアルト存ジテ居リマスガ、尙ホ其分量ノ

程度ニ就キマシテハ、只今種々調査ヲ致シテ居リマスル次第デゴザイマスルカラ、只今ノ事ハ總テ御意見トシテ承ッテ置キマスガ、御話ノ通りニ同ジヤウナ程度ニ讓與ノ分量ヲ定メルト云フコトハ、出來難イコトト存ジテ居リマス

○竹上藤次郎君 ソレデハ「委託林野ノ委託期間ハ五箇年ヲ超ユルコトヲ得ズ前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得」ト云フコトニナッテ居リマスノデ先ヅ原則ト致シマシテハ、五箇年デアリマスルガ、之ヲ政府トシテハ其良イモノニハ永久ニ延バスコトヲ得ト云フ御意思デアリマスカ

○中井政府委員 原則トシテハ殆ド永久ニ委託シ得ル

○竹上藤次郎君 委託シ得ルトシテ、尙ホ讓與ニ就キマシテハ目下調査中デアルト云フコトデアリマスカラ、尙ホ此第五條ノ修正ハ、多少ノ修正ハ御加ヘニナル意思ハアリマスカ

○中井政府委員 其點ハ只今色々調査致シテ居リマシテ、加ヘル意思ガアルト云フ所マデ申上ゲル程度ニ達シテ居リマセウ

○野田文一郎君 私ハ數箇條ニ亘リマシテ修正ノ意見ヲ申述ベテ見タイノデアリマス、中ニハ法律ノ根本精神ニ觸ル、モノモゴザイマス、或ハ法文ノ文章ノ書方ニ屬スルモノモゴザイマス、先ヅ第三條ニ——第三條ニ就テハ、私ハ質問ノ機會ヲ逸シマシタラ、或ハ政府ノ方ノ御意見ニ依リマシテハ、又意見ヲ變ヘルカモ知レマセウ、此機會ニ於テ私ノ修正意見ヲ申上ゲマスレバ、第三條ニハ「國有財產ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ」ソレカラ又國有財產ノ文字ヲ使ッテ「國有財產ニ關スル總理事務ハ大藏大臣之ヲ管理ス」スウゴザイマスルガ、是ハ精神ニ於テハ違ヒハゴザイマセウケレドモ、法文ノ書方ヲ斯様ニ修正ヲ致シタイ「國有財產ニ關スル事務ハ」トアルノ「管理ハ」ト直シ「國有財產ニ關スル事務ハ」ト修正シ「之ヲ司掌シ大藏大臣之ヲ總轄ス」ト修正致シマスレバ、國有財產ト云フ文字ヲ澤山使ハズシテ體裁ガ良イト思ヒマス、次ハ第四條「讓渡」ハ有償ノ意味デア

ルト云フコトヲ質問ノ際ニ御答辯ニナツテ居リマス
ガ「讓渡」ト云フコトハ單ニ權利ガ甲ヨリ乙ニ移轉ス
ル事ヲ意味スルノデ、讓渡ノ中ニハ無償ノ讓渡モア
リマスカラ「讓渡」ニ代ユルニ「賣渡」若クハ「交換」ト修
正致シタイノデアリマス、既ニ第八條ニモ「賣拂讓與
又ハ交換」ト云フ文字ガ使ツテアリマスカラ、之ニ照
應シテ立法ノ意味ガ明確ニナルト思ヒマス、次ハ第
十條デアリマス、此案ニ依ルト境界ノ査定ハ政府ノ
方ノミヨリ爲サルノデ、人民側ヨリ請求スルコトハ
アリマセヌ、是デハ人民保護ノ側ニ薄キ嫌ガアリマ
スカラ、第二項ヲ設ケ「隣接地所有者ハ境界査定ヲ請
求スルコトヲ得」ト云フ一項ヲ加ヘタイノデアリマ
ス、次ハ第十三條デアリマスガ、曩ニ私ヨリ質問ノ際
ニ申述ベシタ通り、隣接地ノ所有者ノ境界ノ問
題ハ純然タル私法的ノ關係デアツテ、公法的ノ性質ヲ
持ツテ居ラスモノト存ジマス、隣接地ノ所有者ガ國デ
アツテモ個人デアツテモ、其間ノ性質ニ區別ハナイモ
ノト信ジマス、故ニ境界ノ査定ハ、隣接地ノ個人ノ間
ニ於テ協定スルノト、同じ性質ヲ持ツベキモノデ
アルト考ヘマス、併シ政府委員ノ御答辯ニ依ルト、是
ハ行政事件デアルカラ、司法裁判所ニ出訴スベキモ
ノデナイト云フ事デアリマスガ、訴願法第一條第五
號ニ土地ノ官民有區分ニ關スル事件ト云フコトガア
リマスカラ、之ニ依ツテ行政事件デアルト云フ御見解
ト存ジマスガ、訴願法ハ三十年前ニ制定セラレタモ
ノデ其當時ハ矢張官僚思想ト申シマスカ、個人ノ間
ニ於ケル純然タル私法的關係デモ、一方ノ所有者ガ
國タルガ爲メニ、官憲ニ依ツテ査定スル事ハ、一種
ノ行政處分デアルト見タノデ、第一條五號ノ行政事
件ノ一トスルコトガ、私ハ本來ノ性質ニ反スルト思
フ、故ニ境界査定ハ私法的關係デアルトコトヲ明カニ
ス爲メニ、本法案ニ修正ヲ加ヘテ、法律ニナリマスレ
バ訴願法ノ第一條ノ五號ハ當然變更セラル、コトニ
ナリマスカ、或ハ消滅スルモノデナイトナレバ、改正
スルノガ適當ト存ジマス、此見地ヨリシテ第十三條
「隣接地所有者境界査定ニ對シ」カラ七字ヲ削リマシ
テ「境界査定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ
境界査定ノ訴ヲ提起セザルトキハ、境界査定ヲ承諾

シタルモノト看做ス」斯様ニ致シマスルト、境界査定
ノ前來申シマシタル性質ガ明カナツテ參リマス、而
シテ裁判ノ管轄ノ如キハ、構成法等ニ依ツテ明カニ
ナツテ居リマスカラ、是ダケヲ十三條ニ修正致シマス
レバ、其精神ガ明ニナルト思ヒマス、尤モ私ハ出席致
シマセヌガ、小委員會ニ於テハ之ヲ通常裁判所ノ管
轄ニスレバ、憲法第六十一條ニ反スルト云フ御意見
ガアツタト聞イテ居リマスガ、併シ訴願法ト本法トノ
關係ニ於テ、私ノ申ス如キ意見ニナレバ、憲法六十一
條ハ何等關係ノナイ事ニナリマス、斯様ニシナケレ
バ實際隣接地所有者ノ權利ヲ十分ニ保護スルコトハ
出來マセヌ、境界査定ニ不服ガアレバ、行政裁判所ニ
東京迄來ルコトハ、地方ノ者ハ爲シ能ハザル所デア
リマス、境界ノ問題ハ檢證シテ實地ノ狀況ヲ明カニ
シナケレバ出來ルモノデナイト、又便宜ノ上カラ觀察
シテモ、司法裁判所ガ裁判スルコトハ最モ適當デア
リマス、土地收用法ノ如キ純然タル行政處分ニ依ツテ
土地ヲ取上グル場合デモ、補償金額ニ就テハ通常裁
判所ニ出訴ヲ許シテ居ル例モアリマス、況ハンヤ本
來ノ性質ガ私法的關係ヲ持ツテ居ル以上ハ、是非共政
府及政友會諸君モ御同意ヲ願ヒマシテ、斯様ニ修正
致シタイト存ジマス、其次ハ第十九條デアリマス「時
價ヲ提供シ」トアリマスケレドモ時價ニ就テ折合ガ
附カナイトカ、或ハ又正當ノ理由ガアレバ拒ムコト
ガ出來ルガ、其理由ニ就イテ見解ヲ異ニシタトキハ、
ドウナリマスカト質問致シマシタガ、政府委員ハ通
常裁判所ガ裁判スルト云フ御答辯デアリマシタケレ
ドモ、併ナガラ是モ見方ニ依リマシテハ、一種ノ公用
徵收ノ如キ性質ヲ持ツテ居ルノデハナイカト疑フ容
レル餘地ガアルト思ヒマスカラ、若シ政府委員ノ御
答辯ノ趣旨ノ如ク、是ハ矢張私法的ノ關係デアルト
云フコトヲ前提ニ致スノデゴザイマスレバ、此點モ
之ヲ疑フナイヤウニ明カニ致シテ置ク事ガ必要デア
ラウト思フ、殊ニ此所ニ「時價ヲ提供シ」トゴザイマ
スガ、提供ト云フ言葉ハ先以テ此代金ヲ相手ノ方ニ
買取ル方ノ提供デハナイカト、斯ウ云フヤウナ
コトノ疑モ起リマスカラ、左様ナコトハ餘リ嚴格ナ
ル提供ヲシナケレバナラヌト云フ必要モナイト思ヒ

マス、故ニ此條文ヲ斯様ニ修正致シタイ「貸付期間ノ
終了」トアル所ニ「貸付期間終了シ」ト入レマス即チ
「貸付期間終了シ」又ハ「貸付契約ヲ解除シタル場合ニ
於テ政府ガ國有財産ノ上ニ存スル建物其他ノ物件ヲ
買取ルヘキ旨ヲ通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當
ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス」ト、斯様ニ致シ
マシテ、第二項ヲ更ニ加ヘマシテ「前項ノ場合ニ於テ
政府ハ所有者ニ對シテ其ノ代金ノ提供ヲ爲ス事ヲ要
ス若シ協議調ハザル時ハ通常裁判所ノ判決ニ依リテ
之ヲ定ム」斯ウ云フコトニ修正ヲ致シタイ、次ハ第二
十四條デゴザイマス
○澤來太郎君 議事ノ進行ニ就テ……
○委員長(清水市太郎君) 野田君發言中デスガ、一
寸御待チ下サイ、議事ノ進行ニ就テ小委員會ノ何カ
問題ガアルサウデスカラ
○野田文一郎君 今少シデスカラ
○澤來太郎君 マダ質問中デアリマシテ、討議ニハ
這入ツテ居マスト思ヒマス、尙ホ小委員會ノ報告モ出
サス場合デアリマスカラ、此場合小委員會ノ經過結
果ヲ御報告致シタナラバ、只今御發言中ニナツテ居ル
コトニモ、御參考ニナラウト思ヒマス、彼此致シマシ
テ此場合小委員會ノ報告ヲ先ニ致シタイト思ヒマス
「贊成々々」ト呼フ者アリ
○澤來太郎君 前同諸君ノ御發議ニ依リマシテ、本
會中ニ小委員會ヲ設ケ審議スルコトニナツタノデ
アリマス、而シテ其委員會ノ經過並ニ結果ヲ報告ス
ベク、私ニ其任ヲ付託サレタノデアリマス、私ヨリ僭
越ナガラ御報告ヲ致シマス、小委員會ハ僅カニ會議
ヲ開ク事一回、而シテ審議ニ上リマシタ箇條ハ、第三
條、第十條、第十三條ノ三箇條デアリマス、第三條ニ
對シテハ私ヨリ「國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣
之ヲ管理シ」トアリマス所ヲ、之ヲ削除致シマシテ、
其他ハ原案ノ通りト發議ヲ致シマシタ、而シテ小委
員會ニ於キマシテハ、其通り可決ニナツタノデアリマ
ス、ケレドモ其後退イテ考ヘテ見マスルノニ、却テ
原案ノ方ガ私ノ修正意見ヨリモ優ツテ居ル點ヲ認メ
マシタ爲メニ、委員長ノ手許迄私ノ修正意見ハ撤回
スルコトノ通知ヲ致シマシタ、次ハ第十條デアリマ

スガ、是ハ只今御發言ガアリマシタヤウデアリマシ
タガ、如何ニモ一見スル所「國有財産ニ付境界査定ヲ
施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有
者ニ之ヲ通知シ其立會ヲ求ムベシ」是ハ政府側ノミ
ニ要求權ガアツテ、民間ノ利害關係者ノ方ニハ、其要
求權ガナイヤウニナツテ居リマスカラ、此點ニ就テ委
員一同ハ政府委員ト屢々接衝ヲ試ミタノデアリマ
ス、其結果政府委員モ同意ノ上ニ、此缺陷ハ勅令ニ於
テ規定スルコトニシタナラバ宜シカラウ、斯ウ云フ
事ニ一決シタノデアリマス、而シテ勅令ハ御承知ノ
通り、吾々ノ容察審議スベキ限リデハゴザリマセ
ス、要スルニ若シ勅令ニ於テ規定サレマス場合ニハ、
即チ民間ニ於ケル利害關係者ヨリモ、政府ニ對シテ
境界査定ヲ要求スルコトヲ得ルコトニ相成ルデアラ
ウト、斯ウ信ズルノデアリマス、之ニ對シテ矢張、小
委員會ハ多數ヲ以テ其事ニ可決致シマシタ、其次ハ
第十三條デアリマス、是ハ非常ナル議論ガアリマシ
テ、殊ニ熱心ナル隣席ノ宮古君ナドハ口角泡ヲ飛バ
シテ、政府委員ト論争サレタノデアリマス、政府委員
モソレニ對シテ熱烈ナル反對意見ヲ述ベラレタノデ
アリマス、其光景ハ宛ラ水火相撃ツノ觀ガアッタノデ
アリマス、其結果審議ニ審議ヲ盡シマシテ、斯様ニ修
正スルコトニ可決致シマシタ、即チ第十三條隣接地
所有者「其他」ノ二字ヲ加ヘ「其他境界査定ニ對シ不
服アルトキ」ノ「トキ」ヲ削リマシテ「モノ」ニ加ヘ「不
服アルモノハ」トシ、其下ノ「其ノ通知ヲ受ケタル日
ヨリ六十日以内」ノ十六字ヲ削リマシテ、即チ「不服ア
ル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得」
ス様ナ案ニ修正スル事ニ、是モ委員會多數ヲ以テ否、
殆ド小委員會ヲ舉ゲテ此事ニ異議ヲ唱ヘタ人ハナカ
ッタノデアリマス、即チ全會一致ヲ以テ可決致シタノ
デアリマス、小委員會ノ經過並ニ結果ハ、只今御報告
申上ゲタニ過ギマセス、私ハ此機會ニ於テ尙ホ當委
員會ノ審議ヲ進行スベク一言致シテ置キタイと思ヒ
マス、國有財産法ハ御承知ノ通り他ノ法案ニ先ジテ
第一著ニ政府ヨリ議會ニ提出ニナツタノデアリマス、
御提出ニナリマシテ以來今日ニ至ルマデ會議ヲ開ク
事前後八回、小委員會ヲ加ヘマスレバ九回ノ多キニ

及ンデ居リマス、其間他ノ委員會ト對照比較シテ見
マスルノニ、隨分質問ノ數モ多クヤウデアリマス
ルシ、又政府委員會ノ辯明モ之ニ對シテ相當ニ力メ
ラレテ居ッタノデアリマス、恐ラク僅カノ間ニ九回モ
重ネテ、斯ノ如ク審議ヲ致シタコトハ他ニ其類例ガ
無カラウト思フノデアリマス、既ニ前回ニ於テ質問
モ殆ド終了ヲ告ゲタルノデアリマスカラ、此機會
ニ於テ、會議ヲ進行シテ、願クハ比較的先ニ出タル法
案ガ、他ノ法案ヨリ遅レテ居ルノデアリマスカラ、ド
ウカ此前後ハ顛倒致サナイヤウニ速ニ會議ヲ終了致
シタク存ズルノデアリマス、尙前回力前々同ニ於テ
陸軍當局者ニ對シテ、北樺太ニ於ケル貸地ノ場所、並
ニ使用地許可ノ面積及其借受使用人ノ詳細ナル表ヲ
要求シテ置イタノデアリマスガ、當局ハ之ニ對シテ
速ニ御示シ下サル事ノ御答辯ガアッタノデゴザイマ
ス、會議モ將ニ終リヲ告ントスル場合デアリマスカ
ラ、ドウカ速ニ御提供下サルヤウ御願致シテ置キマ
ス、尙御提供下サレテ宜イモノカ、如何ナモノデア
ルカ此處ニ於テ御答ヲ願フテ置キマス、次ハ矢張前回
ニ於テ内務省所管北海道ノコトニ關シテ、即チ北海
道未處分地拂下ニ對スル拂下方法、即チ現在最モ弊
害ノ多イ特賣法ヲ改メテ、公入札ニシテハ如何ト云
フ私ノ質問ニ對シテ、北海道長官ハ重大ナルコトデ
アル故ニ、到底自分一人デ答辯致シ兼ねル、尙ホ能ク
主務大臣ト審議ヲ遂ゲテ其以上ニ答辯スルト云フコ
トニ保留ニ相成ツテ居ッタノデアリマス、是モ大概本
日マデノ間ニハ主務大臣ト御審議ヲ遂ゲラレタコ
ト、思ヒマスカラ、此會議ヲ終了セントスル場合ニ
於テ御答辯アラントラ希望致シマス、若シ不幸ニ
シテ未ダ主務大臣ト御協議ノ暇ガナカッタト云フノ
デアリマスレバ、先日來ノ御答辯ノ稍窮セル模様ニ
依ツテ、心竊ニ現在ノ特賣法ノ非ナルコトヲ御認ニ
ナツテ居ルヤウニモ拜察サレルノデアリマスカラ、
北海道長官ノ御人格ニ徴シテ深ク其人トナリヲ信ジ
マスルト同時ニ、必ズヤ其弊ヲ根本ヨリ改メラレル
ニ相違ナイト吾々ハ信ジマシテ、此御答辯ハ此處デ
要求致シマシタ積リデアリマス、左リナガラ御審議
ニナツタモノデアリマスナラバ、御答アル方ガ比較

的望ム所デアリマス、此段御報告ニ合セテ申上ゲテ
置キマス
○委員長(清水市太郎君) 此場合政府委員ノ言明ヲ
希望スルノデアリマスガ、只今小委員會ノ報告ニ依
リマシテ、第十條ニ對シテ勅令ヲ以テ通知ヲ受ケナ
ンダ關係地域所有者ガ、境界査定ヲ請求スルコトヲ
得ト云フ勅令ガ出ルト云フ、ソレヲ一ツ此處デ御辯
明ガ願ヒタイ
○西野政府委員 是ハ前回ノ答辯ニモ申上ゲマシタ
尙ホ小委員會ノ際ニモ大體政府ノ意ノアル所ヲ申上
ゲタノデアリマスガ、元來此法案ニ於テ「境界査定ヲ
施行セムトスルトキハ」云々トアリマスカラ、境界査
定ノ施行前ニ政府ノ意思ニ基クト一個人ノ要求ニ基
クト問ハズ、境界査定ノ場合、斯様ナ意味ヲ以テ
規定シタノデアリマス、而シテ只今御報告ノ際ニ隣
接地所有者ヨリ要求ノアッタ場合ニハ、政府ニ於テ境
界査定ヲ通知シテ、スルノガ穩當デアラウト云フコ
トデアリマス、是ハ只今ノヤウナ趣意カラ至極私ハ
御尤ト考ヘマス、斯様ナ考ヲ持ツテ居リマスカラ、其
事ヲ勅令ニ於テ明ニ隣接地所有者カラ境界査定ヲ申
出タ場合ハ、政府ハ通知スル、而シテ其細則ノ始メニ
明記致ス積リデアリマス
○宮古啓三郎君 此問題ハ勅令ヲ以テ——所有者側
カラ境界査定ヲ通知スルコトヲ請求スルコトガ出來
ルト云フ勅令ガ出ル譯デ、政府ノ方カラ左様ナ勅令
ヲ出スト云フコトヲ御聲明下スツタコト、承知シテ
宜シウゴザイマス
○西野政府委員 御話ノ通りデアリマス
○宮古啓三郎君 ソレハ宜シウゴザイマス、十三條
ノ事ニ就テ、此場合ハ後ニ爭アルコトヲ豫想シテ、政
府ノ意見ヲ定メタモノト思ヒマス、此十三條ノ只今
澤君カラ報告サレマシタ小委員會ノ決定ノ通りデア
レバ、大體救済ハ出來ルコトニナリマスガ、唯タ改正
前ニ漏ラサレテ居リマシタ人ガ、民事裁判所ニ願フ
所有權ノ確認等ノ訴訟ヲ起スト云フ事ニ就テハ、敢
テ此條文ガ妨グルモノデナイト云フコトニ私共考ヘ
ルノデアリマスガ、政府ニ於テモ御考ハ同様デアラ
ウカドウデアラウカ、是ハ隣接地所有者トシテ政府

ノ取扱ハレナイ人、隣接地所有者トシテ通知シナイ人、サウ云フモノハ民事ノ訴ヲ起シ、所有權確認ヲ求メルヤウナコトハ出来ナイト云フ御考デアルカ、其點ニ就テ政府ノ御意見ハ如何デスカ

○西野政府委員 此官有地ト隣接地ト境界ノ査定ニ就テハ、政府ニ於テ其必要ヲ認メル場合ニ於テ、隣接地所有者ニ通知ヲ致シマシテ、此法律ノ規定ニ依ッテ施行シマスルシ、又隣接地所有者ヨリ要求シタ場合ニモ、政府ハ之ニ應ジテ願出レバ、行政處分ヲ執行スルコトニナツテ居リマス、即チ官有地ト隣接地ト、境界ヲ密接スル爲メニ、行政處分デサウ云フコトヲ決スル以上、而シテ境界査定ニ就テ法定ノ手續ニ依ッテ願出ニ行政訴訟ヲ許スト云フコトニナツタ以上、實質ヲ同ウスル事件ニ就テ、司法裁判所ヘ出訴スルコトハ許サヌ趣意ト解スベキモノデアラウト考ヘマス

○野田文一郎君 先刻モ申上ゲマシタガ、更ニ引續イテ意見ヲ申上ゲマス

○宮古啓三郎君 マダ質問ガ大分アルヤウデスカ、若シ意見デアルナラバ質問ガ終ッテカラニ願ヒタイ、サウシテ質問ガ終ッタラ改メテ討議ニ入ル旨ノ御宣告ヲ願ヒタイ

○澤來太郎君 只今政府委員ヨリ北樺太ニ於ケル占領地域ノ説明書ヲ頂戴致シマシタ、ソレト同時ニ私ノ申上ゲマシタノハ、現在ニ於ケル北樺太ノ占領地ヲ、ドウ云フコトニ御取扱ニナツテ居ルカト云フコトヲ御尋シタノデスカ、ソレニ對シテ政府委員ハ、貸付モ使用モサセテ居ル、其貸付モ使用モ皆認可ヲ與ヘテヤルト云フコトデアリマシタカラ、ソレデアレバ貸付地積ノ内容及其借受人ハ、必ズ個人若クハ會社デアルニ相違ナイト思ヒマスカラ、其等ノ明細ヲ御示ヲ願ヒタイ、ソレカラ使用ヲ許可シタ者ニ就テモ、日數竝ニ借受人ノ明細ヲ承リタイノデアアル、然ルニ漠然ト大綱ダケヲ示サレタノデ、失望シテ居リマス、是ハ本委員會ノ終リマシタ後デモ宜シウゴザイマスカラ、ドウカ明細ニ御示ヲ願ヒタウゴザイマス、ソレカラ今一ツハ、北海道ノ御答辯ガアレバ、私ノ質問ハ終

ルコトニナリマスカラ

○委員長(清水市太郎君) 今北海道長官ハ居リマセスガ

○宮古啓三郎君 一寸議事ノ進行ニ就テ申シマス、只今委員長ヨリ午後一時カラヤラウト云フ御話デアリマシタガ、成ベク早く決定シタイト思ヒマス、今日豫算ノ本會モアリマスカラ

○田中政府委員 一寸簡單ニ申上ゲマス、先般御尋レドモ、詳細ノ事ハ早速調査ヲ致シタノデアリマス、レドモ、詳細ノ事ハ此方デハ分リマセス、ソレ故北樺太ニ問合セテ居リマス、何分交通不便ノ地デアリマスカラ、書面デアルト一箇月モ一方ニ掛ル位デアリマスカラ、取敢ズ大要ダケヲ今日差出シテ置イタヤウナ次第デアリマス

○清峯太郎君 今宮古君カラ御發議ノアリマシタヤウニ、委員長カラ討論終結ノ御宣告ヲ願ヒマシテ、十分許リ休憩シテ、引續キ討議決定ヲ願ヒマス

○委員長(清水市太郎君) 質問ハ既ニ終了シタコトニナツテ居ッタノデスカ、意見ノ交換ノ間ニ質問ノヤウナコトニナツタノデスカ、質問ハ是デ打切ルコトニ致シマス、暫時休憩致シマス

午後一時四十七分休憩

午後零時八分開議

○委員長(清水市太郎君) ソレデハ是ヨリ開會致シマス

○野田文一郎君 先刻申シタノハ順序ガ前後シテ居リマスガ、モウ一箇條ダケ申上ゲマス、二十四條ニ就テノ事デゴザイマスガ、是ハ質問ノ際ニ宮古君其他ヨリモ色ニ御説ガ出タノデアリマスガ、矢張其質問ノ當時ニ多分宮古君ノ御意見デアッタト思ヒマスガ、私モ其趣意ニ基キマシテ、寺院佛堂ノ用ニ供スル土地ハ、元來寺院若クハ佛堂ノ所有デアアルノデアリマスカラ、既ニ此二十四條ニ於テ無償貸付ヲスルト云フマデニ進ンデ居ル以上ハ、所有權ダケヲ國ガ何處マデモ維持シナケレバナラヌト云フ必要ハナイト思ヒマス、寧ろ是等ノモノヲ相當保護スルト云フ意味ヨリシテハ、所有權ヲ是等ノモノニ與ヘルノガ最モ

適當ト存ジマス、其意味ニ依リマシテ二十四條ノ一項ノ「雜種財産ハ」以下ノ勅令ノ定ムル所ニ依リ其用ニ供スル間」ト云フ、是ダケ削ッテ、終ノ「當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シアルモノト看做ス」トアル之ヲ「當該寺院又ハ佛堂ニ下付ス」斯ウヤツテシマッタ方ガ宜カラウト思ヒマス、第二項モ矢張同様デ終ニ「貸付スルコトヲ得」トアルノヲ「下付スルコトヲ得」ト致シ、更ニ第三項ヲ加ヘマシテ「前二項ノ下付竝ニ其ノ監督ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」斯ウ云フ風ニ致シマシテ、下付スル手續、ソレカラ其後將來ニ互ツテノ監督ノ事柄ハ、勅令ニ依テ適當ニ規定スルト云フ事ニ致シタイト思ヒマス、尙ホ先刻澤來君ヨリ御報告ヲ承リマシタケレドモ、矢張其御報告ヲ承リマシテモ、私ハ依然トシテ前説ガ善イト信ジマスカラ、前ニ申上ゲタ通りノ意見ヲ主張ヲ致シマス、殊ニ此十三條ニ於テ宮古君ノ御意見ニ依ッテ幾分ノ修正ハ出來テ居リマスケレドモ、是モ尙ホ不十分デアッテ、ドウシテモ斯様ナ立法ノ機會ニ於テ徹底的ニヤツテ置キマセスト、將來ニ於テ再ビ改正ヲスルト云フガ如キコトハ困難デアルト信ジマス、寧ろ私ハドウシテモ之ヲ訴願若クハ行政訴訟ニ依ラナケレバナラヌト云フ事ヲ政府ガ固執ヲナサル眞意ガ分ラヌト思フ、官有ト云フ文字ヲ改メテ國有トシタト云フ事ハ、僅ニ官ト國ト云フ一字ノ違デアリマスケレドモ、此間ニ矢張一種ノ思想ノ進歩ヲ認メルノデアリマスガ、然ルニ尙ホ官有財産時代ノ思想ヲ以テ、何處マデモ御主張ナサル事ハ理解ガ出來ヌ、又十條ノ事ヲ勅令ニ決メルト云フ事デアリマスガ、既ニ勅令デ決メルト云フ事ニ迄ナリマシタ以上ハ、斯様ナ事ハ手續ノ事デナイノデアッテ、隣接地所有者ニ一種ノ境界査定ヲ請求スル權利ヲ認メルノデ、所謂實體上ニ屬スル問題デアリマスカラ、勅令デ決定メルナラバ此法律デ定メルト云フコトガ當然デアッテ、立法ノ體裁ヨリ申シマシテモ、無論サウナケレバナラヌコト、信ズルノデアリマスカラ、前主張ノ通りニ政府竝ニ政友會諸君ノ御賛成ヲ切ニ希望致シマス

○森山儀文治君 一ツダケ動議ヲ提出致シマス、ソレハ第七條ノ中ノ「國」ト云フ文字ヲ削除スルト云フ

説デアリマス、是ハ本條ニ挿入シテ置ク必要モアリマセシ、又此文旨カラ申シマスレバ、政府委員ノ御述ニナリマスヤウナ意味ニ解釋スルコトハ出来マセヌ、旁々以テ削除ヲ希望スル次第デアリマス、其次第ハ國ガ公共用若クハ公用ノ爲メニ必要ガアツテ、サウシテ他カラ其必要ナ土地或ハ定著物ヲ得ヤウトスル場合ニ於キマシテハ、買収スル事モ出来マシ、或ハ又交換ヲ致スコトモ、此規定ガナクテモ、不用ナ雜種財産ヲ以チマシテ交換ガ出来ルノデアリマス、ト申シマスノハ第四條「國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス」ト云フコトガゴザイマス、雜種財産ハ讓渡スルコトガ出来ルト云フコトニナツテ居リマス、讓渡ト云フコトハ有償無償ヲ意味スルト云フ事ハ、前ノ政府委員ノ御説明デ明カデアリマスカラ、有償ニ讓渡スルト云フ事デアレバ、對價ヲ以テ讓渡シテモ、或ハ物品ヲ以テ對價ヲ得テ此方ノ物品ヲ渡スノモ、讓渡ニナルノデアリマス、サウシマスレバ、政府デ雜種財産ヲ對價トシテ政府ノ必要ナル物品ヲ得ヤウト致シマスコトハ、此條文ニ依ツテモ無論出来ル譯デアリマス、又政府ガ必要ナル土地定著物等ヲ得ヤウト致シマス場合ニ買フ事モ出来ルシ、交換スルコトモ出来ル、特ニ規定シマセヌデモ出来ルコトハ明カデアリマス、明ニ此處ニ規定スル必要ガナイト云フノデアリマス、又此條文カラ見マス、國ト國トデ交換スルト云フヤウニ見エルトデアリマス、ト申シマスノハ初メニ

「雜種財産」ト書イテアツテ、帝室用又ハ國、公共團體、若ハ私人ニ於テ公共用、公共若ハ公益事業ニ供スル爲メ必要ナル時ハ、之ヲ他ノ土地及定著物ト交換ヲ爲ス事ヲ得トナル、必要ト云フ文字ハ交換ノ必要ト云フ意味デハナイ、雜種財産ガ公共用、公用其他公益事業ニ供スル必要ナル時ハト云フ文旨デアリマス、サウ云フトキニハ他ノ必要ナ土地若クハ定著物ト交換スル事ガ出来ルノデアリ、所ガ政府ニ於キマシテハ兩隣リニ使ツテ、此方カラ取ル時モ向フカラ取ル時モ必要ナル時ト云フ御意見デアリマシタガ、此文旨デハサウ云フ意味ニ解釋スル事ハ出来ナイト思フ、堂々タル法律條文デアリマスカラ、最モ簡單明晰

ニ其意味ノ分ルヤウニ書クコトガ必要デアルトハ申ス迄モナイ譯デアリマスカラ、先程ノ此「國」ト云フ字ヲ入レル必要アリヤ否ヤト云フ點カラ言ツテモ、必要ナシ、又條文ノ文旨カラ言ヒマシテモ、政府ノ御主張ノ如キ意味ニ解釋ガ出来ナイ、寧ろ是ハ甚ダ不完全ナル撞著シタル文旨ノ法律ト相成リマシテハ、日本帝國ノ法律ト致シマシテ頗ル遺憾ニ存ジマスカラ、旁々以チマシテ「國」ト云フ文字ヲ削除スルト云フ意見ヲ提出致シマス、ドウゾ御賛成ヲ願ヒマス

於キマシテハ其御修正ノ通り修正致シテ然ルベキ者ト考ヘマス、之ニ對シテ御同意ヲ表スル積リデアリマス、ソレカラ第十九條ニ就キマシテノ御話ガアリマシタガ、是ハ地上權ニ關スル民法ノ現在ノ規定ヲ採リマシタノデ、法律上ハ矢張民法ト同ジ言葉ヲ用ヒテ居リマスカラ「時價ヲ提供シ」云々ノ言葉ハ餘リ疑ヒハナイト考ヘマシタ、隨テ此疑ハ民事上ノ考ト致シマシテハ、用語ノ上カラ見て、貸付期間ノ終了トアリマシテ、是等ノ國有財産ノ貸付ニ關シテ其實體ハ民法ノ貸付ノ私法上ノ解釋デゴザイマスカラ、政府ハ之ニ對シテ其權利ヲ認メテ居リマス、是ハ一種ノ民法ニ對スル例外的規定ト考ヘテ下サレタラ宜イト思ヒマス、隨テ御提案ノ如キ御修正ノ必要ハナイ事ト心得テ居リマス、又第二十四條ニ就キマシテハ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ、一層此際一思ヒニ當該寺院又ハ佛堂ニ交付シタラドウカト云フ事デゴザイマスガ、是ハ今日マデ度々申シタ通り、政府ニ於テハ矢張原案ノ如キ趣旨ヲ以テ進ミタイ考ヲ持ツテ居リマス、只今御話ノ雜種財産ノ交換ノ事デゴザイマスガ、文字上ノ事ニ就テハ曩ニ本會議ニ這入りマス前ニ、一寸御答ヲ致シマシタ點モゴザイマスガ、國ニ於テ公共用、公用若クハ公益事業ニ供スル爲メ必要ナルト云々ト云フ事ハ、實際的ニ必要ナル文字デアリマス、用語ノ適否ハ別トシテ、國ニ於テ公共用、公用等ニ使フ場合ニ限ツテ交換ガ出来ルト云フノデ、國ト云フ事ハ是非共ナケレバナラヌ文字デアリマス、若シ國ニ於テ公共用ニ必要ガアレバ買フコトモ出来ルデヤナイカト云フ御話デアリマスガ、買フ事モ無論出来マス、國ノ必要ナ場合交換ヲ認メルト云フ事ノ必要ハナイデヤナイカト云フ議論デアレバ別問題デアリマス、苟モ公共用ニ供スル爲メト云フ精神ヲ持ツテ居ル雜種財産ト交換スル必要ガアル上ハ交換スル場合ガアラバ、國ト云フ字ハ必要デアリマス、第四條ニ依ツテ交換ト云フ事ハ自由ニ出来ルト云フ御話デアッタ存ジマスガ、若シ左様ナ趣旨デアレバ、第四條ノ讓渡ヲ一方ニ許シテ居ルニ、第七條ニ依ツテ自ラ制限セラレ、雜種財産ハ總テニ於テ交換ヲ許サヌ、土地建物以外ノ土地ノ定著物ニ限ツテ

○西野政府委員 ソレデハ大體ニ於テ考ヲ申上ゲマス、第一、第三條ニ就テノ御修正ガゴザイマシタケレドモ、是ハ趣旨ニ於テハ餘リ原案ト變ラヌヤウデアリマスガ、只文字ノ排列ト申シマスカ、立法ノ體裁ト申シマスガ、趣旨ヲ變ヘヤウト云フ御意見デハナカッタヤウニ拜承致シマシタ、之ニ就キマシテハ實體ニ於テ意味ガ變リマセヌケレバ、如何様デモ宜シ、イノデアリマスガ、政府ニ於キマシテハ同一意味デアリマスナラバ、原案ノ如キ立法上ノ用語ニ致シタイト考ヘマス、第二、第四條ニ就キマシテ先刻國有財産ノ讓渡ニ就キマシテハ、世間ニ於テ此讓渡ト云フ言葉ハ有價ノ讓渡ダケデアルト政府ガ説明致シタガ如キ御話ガアツタヤウデアリマスガ、是ハ先般私ヨリモ明ニ御答シタノデアリマスガ、此ノ場合ノ讓渡ハ有償無償ヲ含ミ、第四條ノ讓渡ハ無償デアルト云フノデアリマス、第七條ノ讓渡ハ有償無償ヲ含ミマスカラ、此内容ニ就テノ修正意見デアリマスレバ格別、若シ讓渡ト云フ事ニ就テ誤解ヲ生ジタノデアリマスレバ、自カラ御諒解ヲ得ラレマシタ事ト存ジマス、隨テ第七條ハ原案ノ通り願ヒタイノデゴザイマス、ソレカラ第十條ニ就キマシテ是ハ先刻御答致シマシタ所デ、大體ノ趣旨ハ御諒解下サツタ事ト存ジマス、此處ニ法律ヲ以テ決メマスヨリモ勅令ノ規定デ十分デアラウカト考ヘマスノデ、矢張原案ノ通りニ願ヒタイト存ジマス、十三條ニ就キマシテ是ハ先刻小委員會ノ決議ニ就キマシテ御報告ガゴザイマシタガ政府ニ

於キマシテハ其御修正ノ通り修正致シテ然ルベキ者ト考ヘマス、之ニ對シテ御同意ヲ表スル積リデアリマス、ソレカラ第十九條ニ就キマシテノ御話ガアリマシタガ、是ハ地上權ニ關スル民法ノ現在ノ規定ヲ採リマシタノデ、法律上ハ矢張民法ト同ジ言葉ヲ用ヒテ居リマスカラ「時價ヲ提供シ」云々ノ言葉ハ餘リ疑ヒハナイト考ヘマシタ、隨テ此疑ハ民事上ノ考ト致シマシテハ、用語ノ上カラ見て、貸付期間ノ終了トアリマシテ、是等ノ國有財産ノ貸付ニ關シテ其實體ハ民法ノ貸付ノ私法上ノ解釋デゴザイマスカラ、政府ハ之ニ對シテ其權利ヲ認メテ居リマス、是ハ一種ノ民法ニ對スル例外的規定ト考ヘテ下サレタラ宜イト思ヒマス、隨テ御提案ノ如キ御修正ノ必要ハナイ事ト心得テ居リマス、又第二十四條ニ就キマシテハ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ、一層此際一思ヒニ當該寺院又ハ佛堂ニ交付シタラドウカト云フ事デゴザイマスガ、是ハ今日マデ度々申シタ通り、政府ニ於テハ矢張原案ノ如キ趣旨ヲ以テ進ミタイ考ヲ持ツテ居リマス、只今御話ノ雜種財産ノ交換ノ事デゴザイマスガ、文字上ノ事ニ就テハ曩ニ本會議ニ這入りマス前ニ、一寸御答ヲ致シマシタ點モゴザイマスガ、國ニ於テ公共用、公用若クハ公益事業ニ供スル爲メ必要ナルト云々ト云フ事ハ、實際的ニ必要ナル文字デアリマス、用語ノ適否ハ別トシテ、國ニ於テ公共用、公用等ニ使フ場合ニ限ツテ交換ガ出来ルト云フノデ、國ト云フ事ハ是非共ナケレバナラヌ文字デアリマス、若シ國ニ於テ公共用ニ必要ガアレバ買フコトモ出来ルデヤナイカト云フ御話デアリマスガ、買フ事モ無論出来マス、國ノ必要ナ場合交換ヲ認メルト云フ事ノ必要ハナイデヤナイカト云フ議論デアレバ別問題デアリマス、苟モ公共用ニ供スル爲メト云フ精神ヲ持ツテ居ル雜種財産ト交換スル必要ガアル上ハ交換スル場合ガアラバ、國ト云フ字ハ必要デアリマス、第四條ニ依ツテ交換ト云フ事ハ自由ニ出来ルト云フ御話デアッタ存ジマスガ、若シ左様ナ趣旨デアレバ、第四條ノ讓渡ヲ一方ニ許シテ居ルニ、第七條ニ依ツテ自ラ制限セラレ、雜種財産ハ總テニ於テ交換ヲ許サヌ、土地建物以外ノ土地ノ定著物ニ限ツテ

許スノデ、其場合帝室用ニ供スル場合ハ、國自身ガ公
共用等ニ必要ガアリト認メルカ、若クハ對手方ノ公
共團體自身ニ於テ國有地ニ向ッテ公共用公用若クハ
公益のニ供スルカ、凡ソ特別ノ必要アル場合デナケ
レバ交換ハ許サスト云フヤウナ一種ノ制限の規定デ
アリマスカラ、隨テ原案ノ如キ用語ハ必要デアルト
考ヘテ居リマス

○宮古啓三郎君 第十條ニ就キマシテハ野田君ノ修
正意見モゴザイマシタガ、要スル所私人側カラ境界
査定ヲ要求スルト云フ權利ノアル事ヲ此法文ノ上ニ
現ハシテ置キタイト云フ御意見デアッテ、必シモ無理
ナ御意見デモゴザイマセヌガ、併ナガラ此十條ト云フ
ノハ、單ニ境界査定ヲ施行スル場合ノ規定デアッテ、
政府ノ方ノ都合ニ依ッテ境界査定ヲスル場合ハ、宜シ
イ私人ノ方カラ願ッテ境界査定ヲスル場合モ含メテ
居リマスカラ、政府ニ於テ私人側ノ要求ノ部分ニ就
テハ、勅令ニ依ッテ明カニスルト云フ事ヲ言明サレテ
居リマス以上ハ、敢テ茲ニ其條項ヲ加入シナケレバ
ナラスト云フ事モナカラウト思ヒマスカラ、矢張原
案ノ儘デ此條項ハ置イテ宜カラウト存ジマス、ソレ
カラ第十三條ニ就キマシテハ、先刻澤君ヨリ報告サ
レマシタ通りニ、小委員會ニ於テ非常ナル問題ト相
成ッタ件デアリマス、其結果政府ニ於キマシテハ大ナ
ル讓歩ヲサレマシテ、「隣接地所有者其他」ト云フ文
字ヲ入レテ差支ナイト云フ事ニナッテ居リマス「其
他」ト云フ事ニナリマス餘程範圍ガ廣イノデアリ
マシテ、其境界査定ニ利害關係ヲ有シテ居ッテ其境界
査定ヲ行ッテハ困ルト考ヘル所ノモノハ行政訴訟ヲ
起シ、若クハ訴願ヲスルト云フ事ガ出來ルト云フ事
ニ相成ッテ居リマスカラ、野田君ノ御心配ノ部分ハ大
分之ニ依ッテ救済シ得ルモノト思ヒマス、且又其出訴
ノ期限ニ就テハ「境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願
シ若ハ行政裁判所ヘ出訴スルコトヲ得」トアリマス
カラ、通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ト云フ事ノ
制限ハナクナッテシマフノデアリマス、御承知ノ通り
行政裁判法ニ於キマシテハ、處分ノアル際ニ於テハ、
其處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ出訴スル
ト云フ事ニナッテ居リマス、訴願法ノソレニ規定ガア

リマス、但シ茲ニ不明ト相成リマスノハ、通知ヲ受ケ
ナイモノガ出テ來ルノデアリマス、通知ヲ受ケナイ
所ノ人ガ出テ來マスガ、其場合ニ於テハ通知ヲ受ケ
タル日ヨリ六十日以内ト云フ事ハ無論申サレナイノデ
アリマスカラ、如何ナル時ヲ以テ訴願又ハ行政訴訟
ヲ起スト云フノデアアルカト云フ疑ヲ起シタノデアリ
マスケレドモ、其點ニ就キマシテハ行政裁判所ノ判
例モアリマシテ、通知ノ來ナカッタモノハ、此處分ヲ
知ツタ時カラ六十日ヲ繰ルト云フ風ニ計算スルト云
フ事ニ相成ッテ居ルヤウニ記憶致シテ居リマス、ソレ
デアリマスカラ、サウ云フモノハ今日ノ吾々ノ意見
トシテハ、即チ行政裁判所ノ例ノアリマスカラ、通
知ヲ受ケナイ所ノモノハ、其處分ノアッタ事ヲ知ッテ
カラ六十日以内ニ訴願又ハ行政訴訟ノ出來ルヤウニ致
ス意味ニ於テ、斯ノ如クニ修正スルダケデアリマス
カラ、此分ハ小委員會デ修正致シマシタ通りニ、隣接
地其他「トシ」其他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願
シ又ハ行政裁判所ヘ出訴スルコトヲ得」ト斯ウ云フコ
トニ御修正ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、尙ホ小
委員會ニ於テ問題ト相成リマシタ第三條ニ就キマシ
テモ、全ク是ハ字句ノ問題ノヤウデアリマシテ、既ニ
其提案サレマシタ澤君モ撤回サレタト云フ事デアリ
マス以上ハ、矢張是ハ原案ヲ其儘ニシテ置イテ差支
ナカラウト思ヒマス、サウシマス、要スル所本案ニ
於キマシテ修正致シマスノハ第十三條ダケデアリマ
ス、其他、野田君カラ色々ノ御修正ノ意見並ニ森山君
ヨリ色々御修正ノ御意見モゴザイマシタガ、又其中
ニハ決シテソレヲ惡イ御意見ナリト考ヘル點許リ
デハナイノデアリマス、御賛成ヲ致シタイ點ガ幾ラ
モアルノデアリマス、併ナガラ今日ノ四圍ノ事情ニ
於キマシテ、此修正ハ頗ル困難ナリト存ジマスカラ、
先ヅ此案ニ於キマシテハ、第十三條ダケト云フコト
ニ致シタイト存ズルノデアリマス

○野田文一郎君 先刻來政府委員ノ御説明ヲ伺ヒマ
シタ結果、第十九條ハ私ハ撤回致シマス、アレダケ御
説明ヲ伺ッテ置キマスレバ、他日法文ノ解釋ニ於キマ
シテモ、殆ド私ノ心配ヲ致シマス點ハ除カレルコト
ト信ジマスカラ、十九條ハ撤回致シマス

○高木正年君 野田サンノ修正意見ニ賛成致シマス
○委員長(清水市太郎君) サウ致シマス森山君ノ
修正案ニハ賛成者ガアリマセヌカラ……
○野田文一郎君 賛成致シマス
○委員長(清水市太郎君) ソレデハ採決致シマス、
森山君ノ案ニハ野田君ノ賛成ガアリマスカラ、此修
正案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス
(賛成者起立)
○委員長(清水市太郎君) 少數、否決、ソレカラ野田
君ノ修正案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス
(賛成者起立)
○委員長(清水市太郎君) 少數、否決、小委員會ノ
案、是ハ宮古君ノ案トシテ賛成者ガアリマスカラ、成
立シテ居リマス、此案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマ
ス
(賛成者起立)
○委員長(清水市太郎君) 多數、仍テ小委員會案ハ
可決致シマシタ
○野田文一郎君 少數意見ハ保留致シテ置キマシ
テ、本會議ニ於テ尙之ヲ補足シテ申上ゲマス
○委員長(清水市太郎君) 宜シウゴザイマス、本議
案ハ是デ終了致シマシタ、ドウモ御苦勞様デゴザイ
マシタ
午後零時三十三分散會

大正十年二月十七日印刷

大正十年二月十八日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局